

日本の海岸線を歩く会 行動報告書

報告者 住山 茂

1. 概要

地域分類	知多半島（東海10歩行）
歩行区間	スタート地点： 名古屋鉄道 三河線 碧南駅
	ゴール地点： 名古屋鉄道 常滑線 太田川駅
実施期間	2014年11月1日～5日
全歩行距離	約90km

2. メンバー表

No.	役割・分担	氏名	年齢	歩行日数	備考
1	リーダー・記録	住山 茂	69	5	12期
2		甲田 征三	69	5	12期
3		甲田 みつえ		5	甲田夫人
4		横山 泰一	69	5	13期
5					

3. 歩行の概要

	月日	出発地～到着地	歩行距離	歩行参加者	備考
1	11月1日	碧南駅～知多武豊駅	約11km	住山、甲田、甲田、横山	
2	11月2日	知多武豊駅～師崎港	約24km	〃	
3	11月3日	師崎港～一色	約18km	〃	
4	11月4日	一色～常滑駅	約19km	〃	
5	11月5日	常滑駅～太田川駅	約18km	〃	
6					
7					

4. 参加費、費用概算

(1) 参加費合計	2,000円	参加者延べ日数	20日
(2) 概算費用	合計 65,000円	内訳	交通費 18,000円
	(住山の場合)		宿泊費ほか 27,000円
			食料・飲料ほか 20,000円

5. 歩行の詳細

11月1日(土) 雨

ひかり461号(東京7時03分、新横浜7時22分)に乗車。3連休初日とあって新幹線「ひかり」は乗客が多かったが、そんなこともあろうと、夫々指定席を確保していたので良かった。

しかし、天気は西に行くほど悪くなり、時々雨が強く降っていて、この日の歩行が思いやられた。

定刻9時09分に名古屋駅に到着、東海道本線で刈谷まで戻り、名鉄三河線に乗り換えて碧南駅へ到着。

碧南駅からのルートはすぐに衣浦海底トンネルに入り、トンネルの近くには食堂もなさそうなので、時間は少し早かったが碧南駅前の食堂「愛知屋」に入り昼食。ここは「大正館」と言う旅館もやっていて、かなり古くからの店だとオバチャンが説明してくれ、しばし談笑。

食堂を出て小雨の中トンネルに向けて歩く。やがてトンネルに通じる産業道路は海底へと入って行ったが、歩道はさらに海の手前まで続き、階段で海底まで下りる形になっていて、自動車とは完全に別の自転車および歩行者の専用トンネルになっていた。

約500mでトンネルが終わり、階段を上がって半田側に出たが、殺風景な半田埠頭の資材置場、砂・石炭置場沿いを歩くことになり、雨も少し強くなってきて、早くこの風景から抜け出したい気分であった。

やがて歩道付きの広い道に出たが、工場地帯の上を通る高架となり、歩道が付いているので自動車専用道路ではないはずなのに、下におりる道や階段が全然無く、どこまで続くのかと思いながら歩く。

やっと地上に出られたが、今度は現在位置が良く分らなくなってしまった。しかし、ここで甲田、横山のスマホのナビシステムが俄然威力を発揮して、JR武豊駅から名鉄の知多武豊駅に出ることが出来た。

当初の計画では、初日は知多武豊駅の次の富貴駅まで行き、電車で戻ることにしていたが、雨の中を歩いたこともあり、明日頑張ることにして、初日の歩行はここまでとする。

そして、知多武豊駅近くのビジネスホテル「こがね荘」に入る。

ホテルは4800円(朝食付き)と安かったが、部屋は狭く設備もプアーで、寝るだけといった感じで、周辺に数多くある工場への長期出張者が多く泊まる宿の様であった。

部屋で軽く一杯飲んだ後、近くの食堂へ行き、良いことがなかった初日の歩行の疲れを癒す。

11月2日(日) 曇りのち晴、夕方に夕立

朝6時から朝食、目覚めが早くまた早めに出発したい我々にとっては好都合であった。

食堂のカウンターには、名前が書かれた焼酎や日本酒の瓶が並んでいて、1日の仕事を終えた出張者たちがここで疲を癒す光景が目についた。自分も若い頃には同じような経験をしたなあ、と。

7時35分にホテルを出発、天気は曇天でまだ路面も濡れていたが、天気は回復方向の様であった。

工場地域を抜け火力発電所を過ぎるとようやく海岸線にでることが出来て、やっと海岸線歩きになった、という感じがした。

暫らく国道247号線から少し離れた海岸沿いの道を歩いたが、名鉄の河和口(コウワグチ)駅手前で247号線に合流、暫らく海岸沿いを走る国道を歩き、名鉄河和線終点の河和駅を通過後また国道と別れて海岸線沿いの道を行く。

やがて道は大きな工場に挟まれた形になり、従業員に何を作っているのか聞いて見ると「甘味料」だとか、この辺りは漁港と工場が混在している感じであった。

工場横を抜け海岸線に出たが、暫らくすると行き止まりになってしまい、国道に出る道を探してウロウロ、その後も同様のことがあり、この辺りの海岸線沿いの道は整備されていないことが分かったので、残念ではあるが素直に国道を歩くことにした。

少しウロウロした後国道に出て、そろそろ昼食の時間だと思っていると、突然巨大な海産物の土産物店兼食堂が出現「株式会社魚太郎」、丁度昼食時だったので車と人が溢れていたのにはビックリ、食堂は大変な混雑だったので、外の屋台風のところでビールを飲み海鮮物を食べる。

昼食後は国道を歩いて順調に進み、大井漁港を過ぎ師崎(モロキ)港へ向かい、3時過ぎには民宿「羽豆屋」に到着、近くのコンビニでアルコールを仕入れて乾杯、流石に知多半島突端の漁港、夜は鯛の塩焼きなど海産物が並んでお酒も進んだ。

師崎の手前で少し夕立にあったが、天気もまずまずで、初日の遅れも挽回できて良かった。

11月3日(月) 晴、風強し

朝から天気は上々、朝食後羽豆神社、羽豆岬に行き、8時半に宿を出発。

歩き出してすぐに魚の干物を天日に干しているところに遭遇。製造直売もしていたのでお土産などを購入し、店の人と談笑。曰く「江戸前のアナゴはここから出しているものだ」と、まあそんなものかも知れないなあ、と何となく納得して歩き出す。

国道247号線はほぼ海岸沿いとなっていて、海を見ながらの歩行となったが、風が強く向かい風に苦勞しながら歩く。

宿のオバチャンが「この辺りは地盤がしっかりしていて、多少の地震では揺れないんだよ」と言っていたが、確かに波打ち際には平らな岩が見えていて、岩盤が海底まで続いていることが良く分った。

内海港を過ぎると今度は、千鳥ヶ浜、お吉ヶ浜と砂浜が続き、海岸線の様子が大きく異なっていて、自然の造形の不思議さ、素晴らしさに感心してしまった。

千鳥ヶ浜の食堂「大徳」であなご丼を注文したが、このアナゴも東京へ行って「江戸前」になるのか、と思いつつ知多産アナゴを食べる。

お吉ヶ浜では温泉が噴出している櫓があり、地図にも温泉マークが示されていて、立派な宿が建っていたが人影は殆ど見られず、大丈夫なのかと余計な心配をしてしまった。

お吉ヶ浜を過ぎて野間燈台近くになると、強風の中ウインドサーフィンをしている人が多く、我々は強風に苦勞していたが、サーファーにとっては丁度良い風なのかも知れないと思った。

富具(フグ)崎港には富具神社があり、ここからこの日の宿のある一色の街となっていて、民宿「一色荘」は海辺のすぐ近くにがあった。

ここは西側が海(伊勢湾)なので夕日が綺麗で、夕日と荒波の写真を撮ったが、出来はどんな具合だったか??

夜は立派な平目の刺身が出てお酒を美味しく飲み、最後には丸ごと一匹のゆでたタコが出てきて、宿のオバチャンが鉄みでチョコキンチョコキンと切ってくれ、腹一杯海の幸を堪能する。

11月4日(火) 晴

天気は晴れ、風も弱くなっていて、歩くには絶好の感じとなった。

7時に朝食、8時過ぎに宿を出る。一色の街は地名としては野間で、史跡やお寺が多く野間大坊(大御堂寺)には源義朝の墓などがあり、野間史跡マップを頼りに見学して行くことにした。

寄り道をした後、海岸沿いの道に出て北上、この辺りの海岸は遠浅でのりの養殖が盛んに行われていて、作業を終えて浜に上がって来る人が居たので、話をしようと近付いて行くと、向こうから「一色荘」のブログで貴方達のことを見たよ、と言われて少し驚いてしまった。

そう言えば、宿の人から写真を撮らせてほしい、と言われたことを思い出した。

色々話をしていると、この先にソニーの盛田昭夫さんの店があり、美味しいお酒もあるので寄って行ったら、と言われ、それではと歩き出した。

暫らく歩くと中部国際空港が良く見えるようになったが、航空機の発着は多くない感じで、口の悪い同行者の一人は、中部国際ローカル空港だからこんなものだ、などと言っていた。

やがて、常滑市に入り少し進むと「盛田株式会社」の醸造工場と売店および食堂があり、盛田昭夫さんはこの第15代当主だったとのこと、全然知らなかったが折角なので食堂「盛田味の館」で早めの昼食とする。

12時前に午後の歩行を開始、すぐに国道247号線と合流して暫らくは海岸沿いの国道を歩き、やがて常滑市街に入りまずは登り窯を見学、その後土管坂、煙突のある風景などのポイントを見て回ったが、観光ポイントの表示やそこに至る案内板などが解り難く、一工夫必要だと感じた。

最後に「とこにゃん」(常滑招き猫)を見て3時過ぎにホテルルートインに入ると、夜はホテル前の昭和レトロの店との触れ込みの「あうん屋」で、今回最後の夜を過ごす。

11月5日(水) 朝のうち雨のち曇りのち晴

最終日の朝は雲が多く、予報では天気は悪くはなかったが、出掛けに雨が降り出し、傘をさしての歩行となる。

8時10分にホテルを出て空港への自動車専用道路を横断、名鉄常滑線の榎戸駅の先から海岸線に出て、海岸線沿いの道を北上、雨は降ったり止んだりの状況で、傘をさすほどでもなかった。

蒲池、大野町を経て新舞子へ、新舞子は昔は海水浴場だったと思うが、今は埋立てられて工場地帯となっていた。工場地帯の歩行はどうなることかと思っていたが、工場地帯と並行する自動車専用道路と名鉄の線路の間に細い道があって、殆ど車も通らず歩き易くて良かったし、個人の家の門の前にその家専用の踏み切りがあるなど、中々面白い風景が見られた。

昼には古見駅近くのすし屋に入り、先も見えたビールなども飲んで、プチ打ち上げのような形になる。

昼食後は国道155号線を歩き、2時過ぎに名鉄太田川駅に到着、太田川駅は常滑線と知多線が合流する所にあり、新しくなったばかりで（一部まだ工事中）とても綺麗な大きな駅だった。

雨の日もあったが、トラブルもなくほぼ予定通りに無事今回の歩行を終了したので、名古屋駅のレントランで打ち上げをして、4時22分のみかり526号に乗って帰途につく。

6. 写真と地図

写真は4頁から6頁に示す。

地図は7頁に示す。



衣浦トンネル入り口 (11月1日)



トンネル内部 (自転車歩行者専用) (11月1日)



初日の歩行は雨の中 (11月1日)



火力発電所を過ぎて海岸線に出る (11月2日)



カゴに溢れる しらす (11月2日)



フグを捌く (このフグには毒はないのだとか) (11月2日)



師崎民宿の夕食 (11月2日)



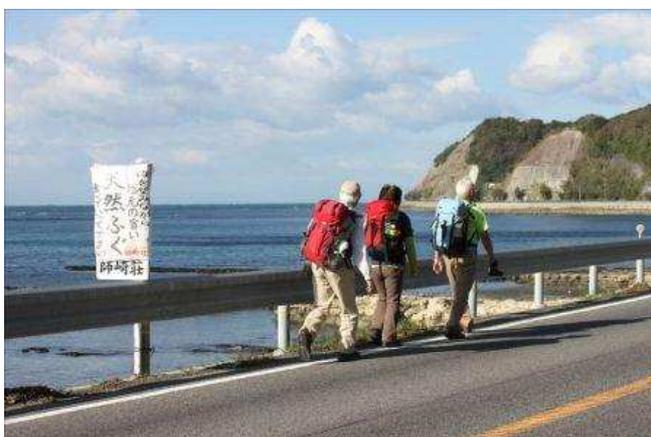
3日目の朝 (民宿のバアちゃん) (11月3日)



江戸前になるアナゴ (11月3日)



岩盤の海岸 (11月3日)



フグの看板を横目に国道を行く (11月3日)



千鳥が浜での昼食 (知多産穴子定食) (11月3日)



強風下でのウィンドサーフィン (11月3日)



平目の刺身 (11月3日)



ゆでだこ(この後はさみで足を切られる) (11月3日)



源義朝の墓 (野間大坊) (11月4日)



ブログを見たよと、のり養殖業者 (11月4日)



盛田味の館にて (館のオジサンと) (11月4日)



常滑の登窯 (11月4日)



土管坂にて (11月4日)



個人の家の専用踏み切り (11月5日)



太田川駅に到着 (11月5日)

